

あいち病害虫情報 最新情報

平成29年 5月16日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

ムギ類の病害

5月上旬及び中旬の調査では、コムギうどんこ病や赤さび病の発生は、無防除ほ場ではやや多いほ場もありますが、全体的には昨年と比べ少なく、ムギ類赤かび病の発生も少ない状況です。

名古屋地方気象台5月11日発表の1ヶ月予報によれば、天気は数日の周期で変わり、平年に比べ晴れの日が多い見込みで、平均気温は高い確率50%、降水量は平年並又は少ない確率ともに40%と予想されています。

第二次伝染源となる発病穂がみられないこと、薬剤防除が励行されたことから、赤かび病の第二次伝染は少ないと予測します。

果樹の病害

降雨が続くと果樹の病害が発生しやすくなりますので、天気予報に留意して、適期防除を心がけましょう。

ナシ黒星病の発生が多い地域があります。特に、幼果期は感染しやすい時期ですので、伝染源になる発病葉や発病果は、見つけ次第除去するとともに、防除を実施しましょう。

モモせん孔細菌病は、昨年期間を通して多い状況が続いたので、注意が必要です。本病は、枝病斑から出る病原菌が、風を伴う降雨により広がり、周囲に感染が拡大します。昨年、発生が多かった場所を中心に、注意深く観察し、枝病斑は見つけ次第除去しましょう。また、多発してからでは、薬剤散布の効果が劣るので、早期防除を心がけましょう。

ブドウ黒とう病は、梅雨明けまで降雨のたびに二次伝染し、発病が増加します。前年発生したほ場では、防除を徹底しましょう。

ブドウ晩腐病は、開花直前から防除適期に入ります。重点防除時期を逃さないようにしましょう。

果樹の害虫

果樹を加害するカメムシ類の主要種であるチャバネアオカメムシについては、現在のところ予察灯及びフェロモントラップでの誘殺数はやや少ない状況です。今冬に行った越冬密度もやや少ない状況でしたので、6月末までの果樹園の飛来数はやや少ないと予測します。しかし、気温が20℃以上の風がない夜は行動が活発になり、果樹園へ飛来するおそれがあります。特に、例年被害が多い園では、飛来状況に注意し、飛来を確認したら、防除を実施しましょう。

チャノキイロアザミウマは、成虫発生ピーク時の農薬散布が最も防除効果が高いとされています。平成29年5月11日に発表した「チャノキイロアザミウマ情報第1号」に記載し

た成虫発生ピーク予測日を参考にし、適期に防除しましょう。

果樹のカイガラムシ類の防除適期は第1世代1齢幼虫発生ピークです。ナシマルカイガラムシ及びフジコナカイガラムシ第1世代1齢幼虫の発生ピーク予測日は、本日発表の「ナシマルカイガラムシ情報第1号」及び「フジコナカイガラムシ情報第1号」を参照してください。

キクの病害虫

露地ギクは定植時期に入っています。定植用苗は、白さび病などの感染がないものを用いましょう。

- 農薬散布後は、防除器具のタンクやホースも洗いもれがないようにしましょう。
- 農薬は安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。
- 防除の際は、周辺作物に飛散しないよう注意しましょう。
 - ・ 防除面積や用途に応じた防除器具、散布ノズルを選択しましょう。
 - ・ 散布するときは朝夕など風の影響が少ない時間を選びましょう。
 - ・ 風向きに注意し、他の作物の方向に散布しないように作業しましょう。
 - ・ 飛散の恐れがあるときは、近接ほ場の生産者に連絡しておきましょう。

問合せ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室
TEL 0561-62-0085 内線471 FAX 0561-63-7820